

エロエロ

エロエロ



DOJIN  
R18  
成人向け  
11歳未満の  
購入・閲覧禁止





藤堂ユリカ

スターライト学園の高等部に所属するクール系のゴスロリアイドル。人間と吸血鬼の間に生まれた混血の吸血鬼(ダンピール)。推定600歳で、永遠の刻を共に旅してくれる下僕を探している。らしい。その強烈なギャラクターとロリゴシックのコーデを身に纏い舞うステージに魅了されるファンも少なく、カルト的な人気を誇る。元トップアイドル「神崎美月」とユニットを組んだ経歴もあり。その実力は折り紙つきである。そのような、気高く美しい彼女を汚す魔の手が迫ってはいやうとは、誰が予想出来たであろうか…



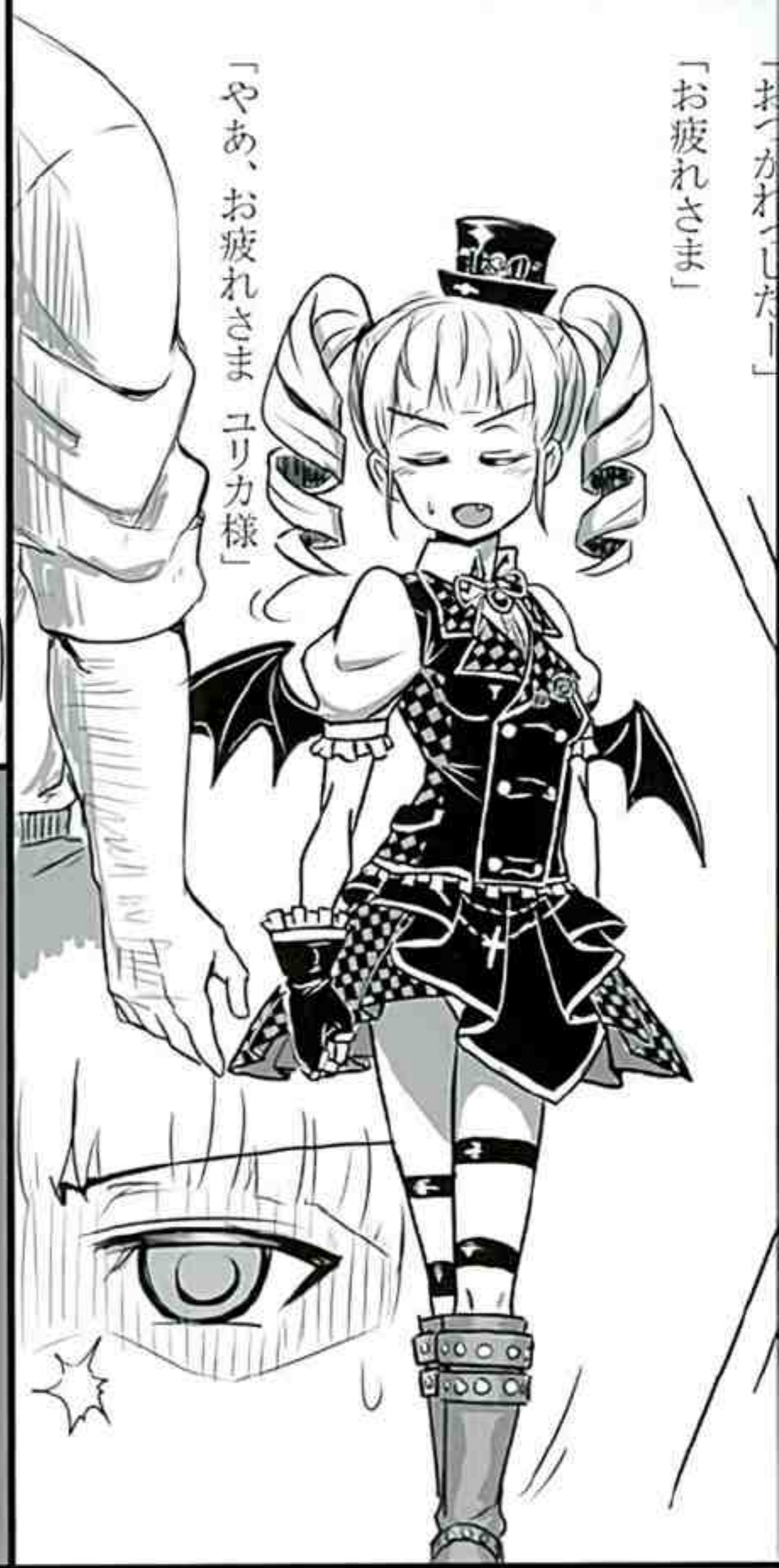
!?

「で、この後…いいかな」

「とてもいいステージだったよ。」

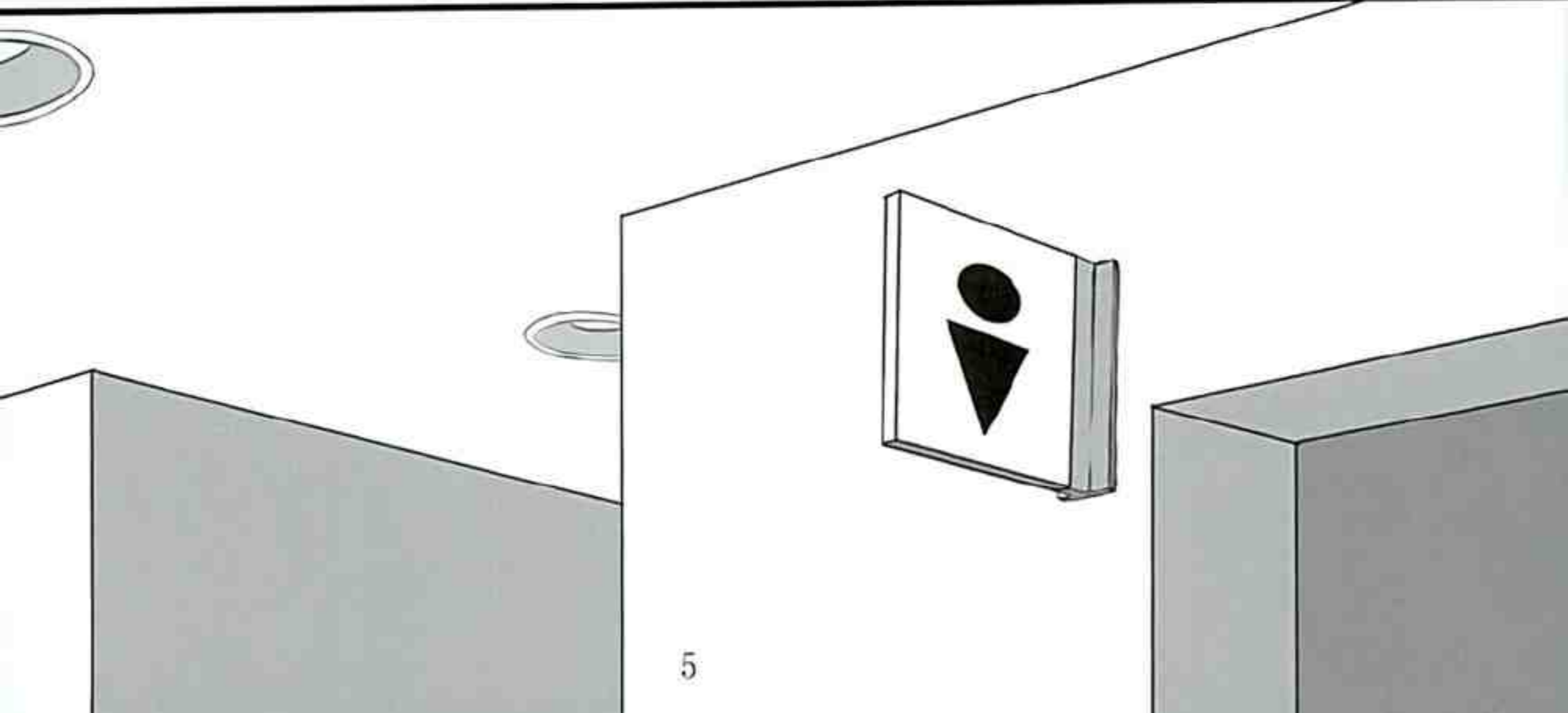


「…良くないことも無くして」



「お疲れさま」

「やあ、お疲れさま ユリカ様」





ステージ後のユリカの前に現れた中年の男は、  
わたしをトイレの個室に連れ込みスカートを脱ぐよう命じた

この期に及んでまだ反抗的な目をするんだね。さすがはユリカ様。  
私はそういう気の強い女の子は大好きだよ

「あんまり調子に乗っていると、血を吸うわよ」  
ユリカは渋々スカートと靴を脱いだ。  
彼女にはこの男の命令に従わなければいけない理由があった



先日ユリカはアイカツシステムを運営する会社の重役だというこの男に呼び出され、ある動画を見せられた

「この娘に見覚えはないか？」

「蘭！どうしてこんな」

目隠しがされていたものの、

この声は間違いない。その動画に写っていたのはまさしく紫吹蘭その人だった。



男は動画の出処は語らなかつた。「君はこの娘を大層気にかけているらしいね。この動画を流されたくなければ私の言うことを聞きなさい」



突然の脅迫に驚愕と憤怒が湧き上がったが、蘭を思い不本意ながらユリカは承諾したのだった。





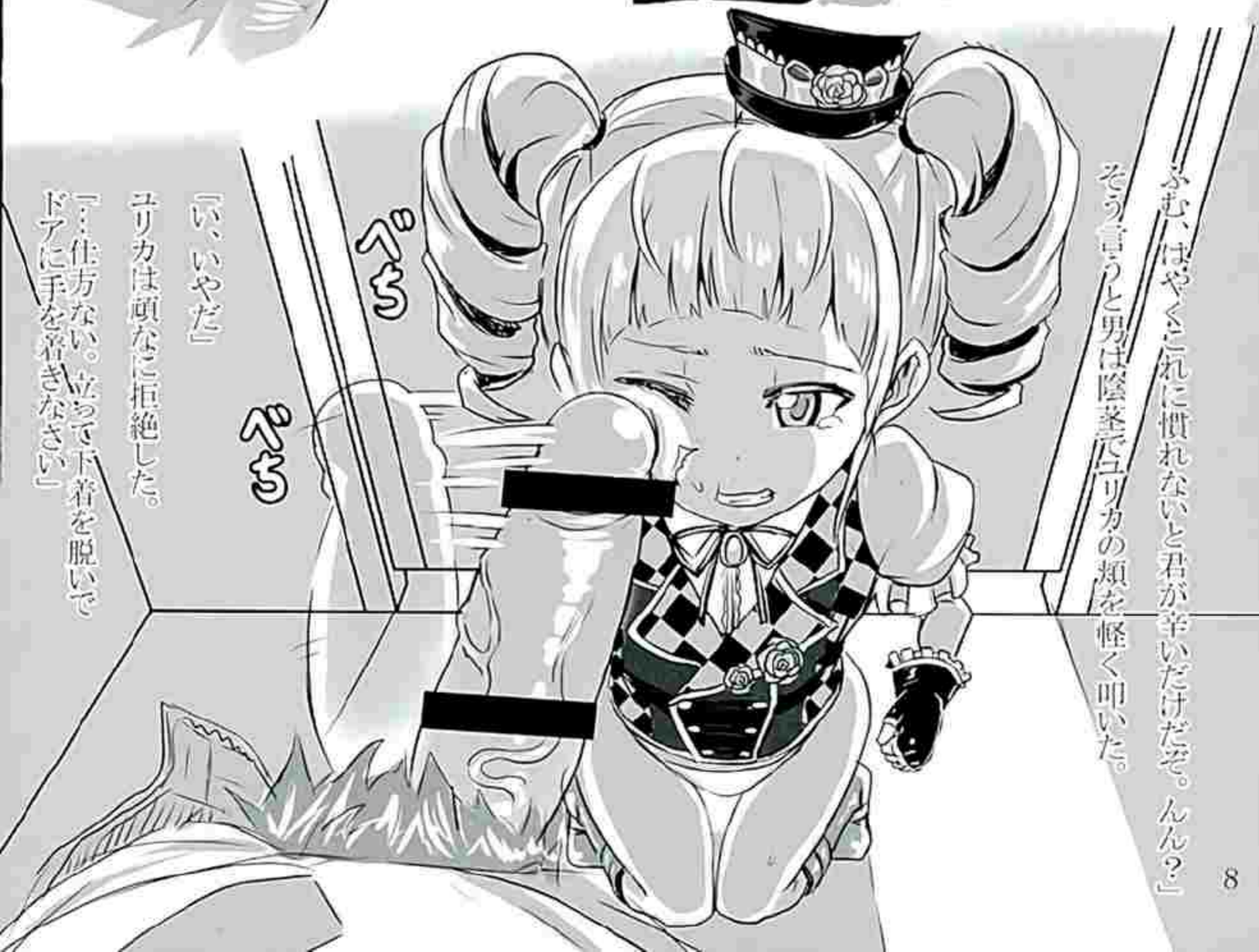
男はユリカに跪くよう促しズボンを脱ぎ、いきり勃つ肉棒をユリカの目の前に放り出した

「まずはコレをしゃぶってくれないか？」

むあつ

「む、むりい……」

むせ返る臭いに思わず悲鳴が漏れる



「ふむ、はやくこれに慣れないと君が辛いだけだぞ。んん？」

そう言いつと男は陰茎でユリカの頬を怪く叩いた。

「い、いやだ」

ユリカは頑なに拒絶した。

「……仕方ない。立って下着を脱いでドアに手を着きなさい」

ユリカは男の言う通りに、男に尻を突き出すような格好をした。すると男はユリカの秘部に肉棒を押し付けた。

「しない」

男は何も付けずにユリカの秘部に割入った



ぬちっ

ズズ...

「言うことを聞かない罰だ。前戯もなしに挿入れてやるわ」  
「や、ひ、避妊は」

ブシューッ♡

ユリカの口から嗚咽が漏れた







ハッ

「なんだ、嫌と言う割にすんなり入ったぞ。ステージの興奮が冷め止まぬせいか…それともチンポを見て濡らして…」

「あ、ちがつ…い？」

「う、うむ。ステージ衣装のまま犯すのは良いな、フンツ、これは直ぐに達してしまいそうだ」

男は容赦なくユリカに腰を打ち付ける  
いつの間にか上着の胸の部分は大きく開き、  
小ぶりの胸があらわになつていた



んっ

あっ

ズッ

ズッ

ハッ

あっ

「う、イクッ」

あゝ

イクッ♡

ほおっ

「ま、まさか中出ししてないでしょうね？ねえ？」  
男は一際強くユリカに腰を打ち肉棒を子宮口に突きたて精液を放った  
男は無視し段々縮まってく  
膣の感触と中出しの余韻に浸っていた

イクッ



はっ

はっ

はっ

ドロ☆

ドロ☆

ドロ☆

蘭の名前を聞いたユリカは  
生気を取り戻すように男を睨めつけた

何十分経過しただろうか  
あれから中年の男はユリカの膣内に何度も  
中出しし、肉便器のように扱った。  
いままで受けたことのない壮絶な  
仕打ちにプライドを傷つけられ  
茫然自失になりかけるユリカに男は言葉を投げかける。

「年甲斐もなく張り切ってしまったな。  
今日はこのくらいにしておこう。次の機会にはワエラくらいでできるよう…  
なんだ聞こえてないのか？あの蘭って娘の動画を流してしまっぞ」



X

はっ

「いいぞ、そのぐらい気位が高く  
なければこちらもやりがないからな」  
男はそう言い放ちトイレを後にした

髪日後ニリカは再て中身の男に吐き出しに成し  
言われるがままパニールカハルの衣装を着た

「ん〜この生意気な尻、やはり堪らないな。  
触り心地も良し。私の見立て通りだ。可愛いよユリカちゃん」

さわ

さわ



「ほらほら、おじさんのチンポも我慢の限界だ」  
男はユリカの腰を引きつけ怒張した  
肉棒を布越しの秘部に押し付けると、  
ユリカはますます同様した  
「ちよつ、まってそんなイキナリ…」

「え、そ、そんなことも  
なくもなくつてよ」  
突然の褒め言葉に動揺するユリカ

キョウ

スウスウ

…ついでに本当にムードもへったくれも、んっ、ないわね！あつ」  
ユリカは動揺している間に押し倒され犯されていた

「ちよ、やめて！また腔中に出さないでえ！」  
「ユリカちゃん、の腔中凄く気持ちいいからすぐ出る！」





ふひひ

ズ  
ン

ヒクヒク

なかに  
はか

また

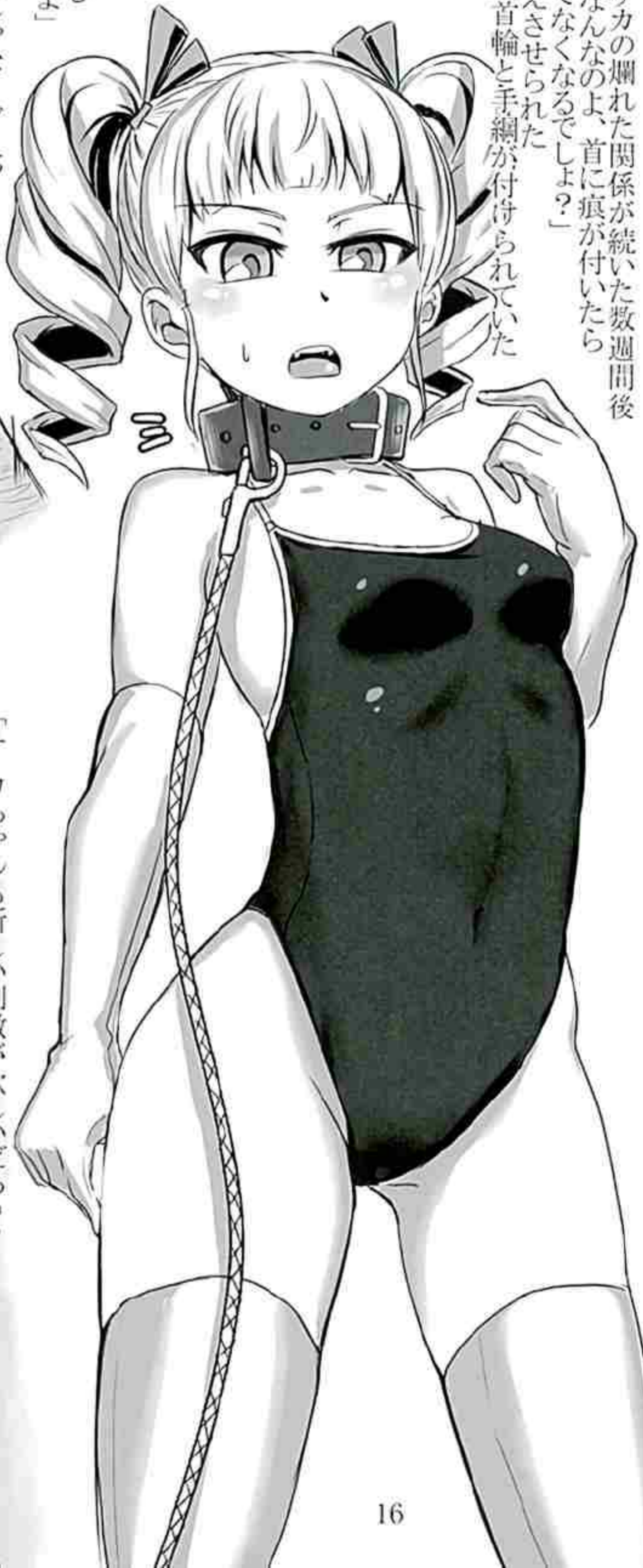
ズ  
ン

「まだまだ行けるぞ」  
そう言い男はユリカが気絶するまで犯し続けた

中年の男とユリカの爛れた関係が続いた数週間後  
「ちよつとこれなんなのよ、首に痕が付いたら  
ステージに立てなくなるでしょ？」  
スク水に着替えさせられた  
ユリカの首には首輪と手綱が付けられていた

「今日は少し  
手荒にいくよ」

「いつも手荒じゃな…ぐえっ！」



「ユリカちゃんも新しい刺激が欲しいだろう？  
あとこれからもう一人と相手をしてもらうよ」



「…一人の女に寄って集って、アンタ達つくづく最低ね」



「これはイジメ甲斐が  
ありそうな  
娘ですなあ」

「ね？言ったとおり  
でしょう。  
気が強い娘だつて」



「何回も輪姦しているのに締めつけが変わりませんでしょう」  
「そうですね流石人気アイドルだけあって下の方も素質がありますな」  
「アンタ達…人をなんだと、ああん、思ってるの…はあつ」



「さて、口の方を使わせていただきますね」

「あー、でも八重歯があたっていい感じに……うっ出る」

むぐ

ハッ  
ハッ  
ハッ

ハッ

ぬはぁ

「お若いすなあ」  
「はは、お互い様で……ほら、舌を出してみなさい」

んん!!

んあー

ユレユレ

オエッ





「ふう、また出してしまった」

「すごいイキっぷりでしたねえ」

「はは、もうこれで打ち止めですよ」

「では最後に私が…」

「おや、いやあ…」

「おや、これは？」

「やつとですわねえ……」



「これでいいのかね？」

「うん。とつてもいい絵。キヤワワ♥」

「この後に君がユリカちゃんを  
慰めて自分のモノに…  
つていつものパターンかい？」

「ウッフ。いつもオジサマには  
感謝してるわ★」

「しかしユリカちゃんも気がつかないだろうね。  
蘭ちゃんの動画がまさか、君の調教動画だったとは。  
どうせオジサンたちに好きな女の子を  
抱かせるのも調教の  
一環なんだろう？」

「もちろん♪」

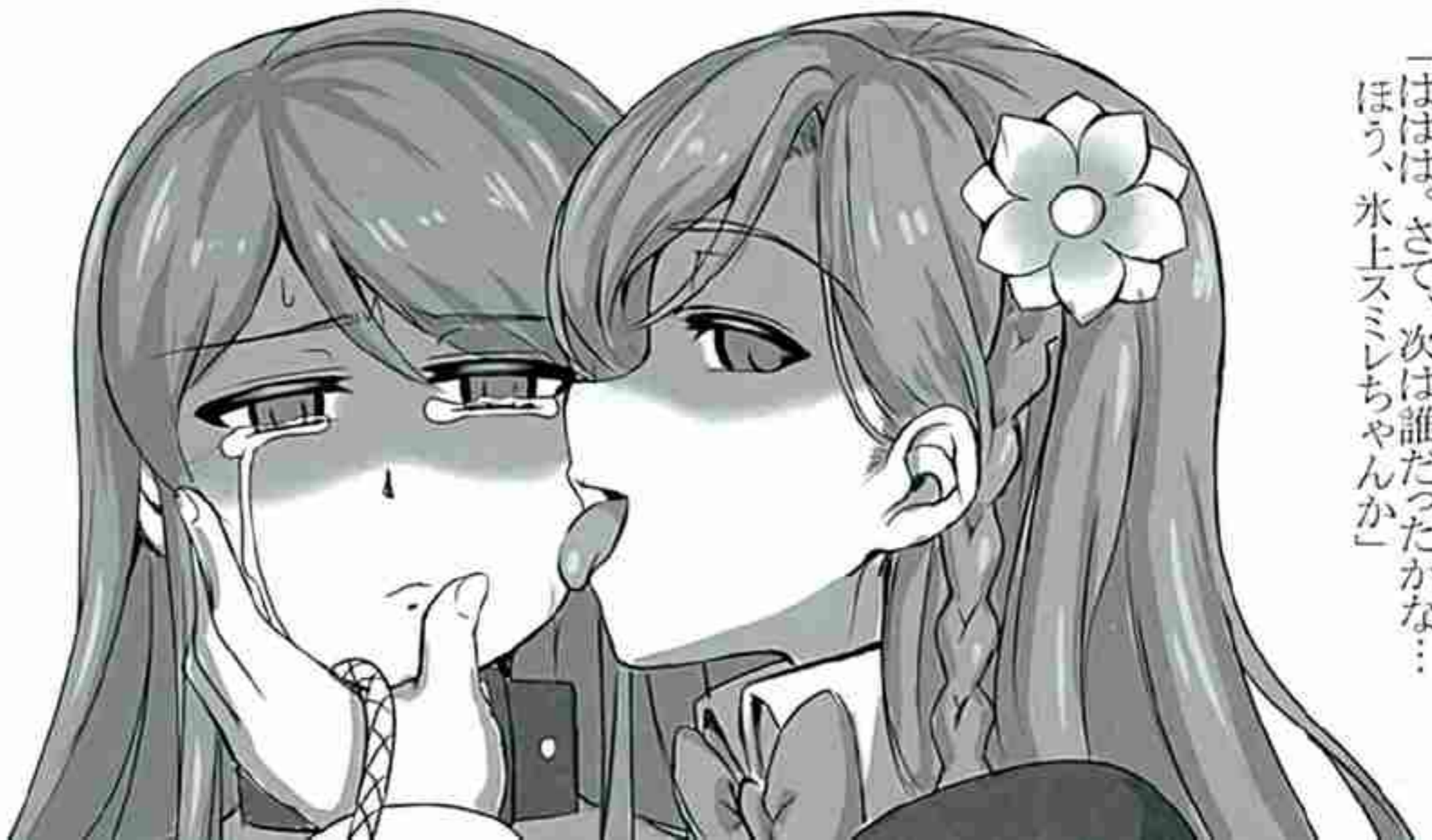
「女同士の憧れや友情、愛情を裏から操り  
百合ハーレムを築こうとしている君には恐れ入るよ。  
まあそのおかげで私たちもいい思いをしているわけだが」

「まあ。オジサマったらお上手♠」



「ははは。さて、次は誰だったかな…  
ほう、氷上スミレちゃんか」

「あの娘からとつてもイイ女の子の  
においがするの。これからもよろしく  
お願いね。オジサマ」





サークル「地震過剰」

GROUND

※18歳未満の  
閲覧・購入・譲渡禁止